（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	理事長　　斎藤　正樹
事業所名	サテライト・小規模多機能くるみの家	管理者	金坂　明美

法人・事業所の特徴	本体である小規模多機能くるみの家との連携体制を整え相互補完し合いながら、スムーズに複合的なサービスを提供し、安心できる環境で馴染みの職員による継続的な生活支援を行っています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	1人	人	4人	1人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認			全職員で取り組んでいることを確認できた。本体事業所での外部評価も行ってきたが、書式・内容が一般人には分かりにくく不相応な項目があるように思う。事業所にあったチェック項目にする様、変更ができたら良いと思う。	個人の自己評価に隔たりがある為、項目の内容を理解できる様、職員間で話し合い振り返りを行うことで、できていないと思われる項目に関して改善していく。
B．事業所のしつらえ・環境			環境面でも特に気になる部分はなく民家なので、家庭的で落ち着ける雰囲気を感じられる。	施設内で季節を感じられる飾り付けを行い通うことを楽しみにしていただける様、施設内の環境面に配慮していく。
C．事業所と地域のかかわり			松涛会の中の一つの事業所であることは地域の中で知られていると思うが、一般の人は難しいことを聞いても分からないので、簡単な言葉で分かりやすく事業所の説明をするほうが良いと思う。	本体と連携し行事やイベントを企画し、地域の方に参加していただき事業所にも足を運んでいただくことで、小規模多機能のことを知っていただけるよう努める。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			法人主体ではあったが、徘徊模擬訓練に参加していること等、地域の方やご家族との関わりや交流を図っていると思われる。	地域の行事は可能な限り参加し限られた職員だけでなく勤務を調整しながら、全職員で関われるようにしていく。
E．運営推進会議を活かした取組み			運営推進会議で情報の共有・意見交換がされている。若い世帯も増え地域との関わりを持ちたくない等、考え方が変わってきている様に感じているが、今後も地域の情報を共有していきたい。	利用者の情報報告等は今後も実施していき事例検討も守秘義務や個人情報を再確認し、必要に応じて実施する。
F．事業所の防災・災害対策			スプリングラーの設置や地震・風水害の防災訓練については報告を聞いて理解した。 防災訓練は運営推進会議でも報告されている。	防災訓練に地域の方や消防団の参加を求め地域の防災訓練等にも積極的に参加し地域との連携を図る。